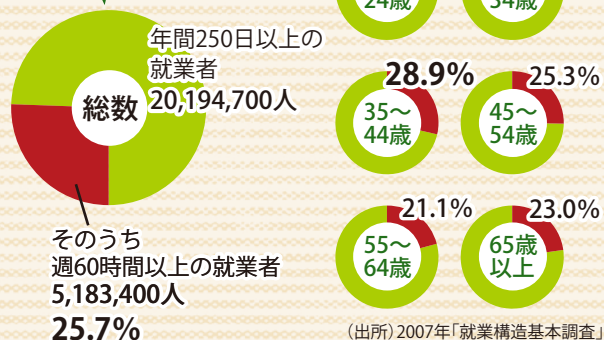


過労死の発生件数と「過労死予備軍」

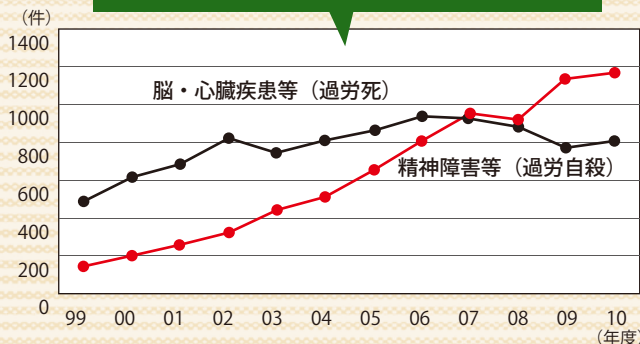
厚生労働省は、過労死・過労自殺の認定基準（通達）を作って、一定の要件を満たした過労死・過労自殺を「労働災害」と認定しています。2010年に労災認定されたのは過労・ストレスによる脳・心臓疾患285件（うち死亡は113件）、過労による精神疾患308件（うち自殺は65件）となっています。

もっとも、労災請求がなされる事案は氷山の一角で、重い後遺障害が残った場合や自殺未遂も含めると、過労死・過労自殺の犠牲者は数万人に達していると考えられます。また、過労死の認定基準とされている「週40時間を超える時間外労働が1か月100時間、又は2か月以上平均して80時間」を超えて働いている人々（週にすると60時間以上働いている人）は、数百万人いるといわれています。

過労死ライン(週60時間以上)の労働者数



過労死・過労自殺などの労災認定請求件数



あなたに
お願いしたい
7つのこと

100万人署名にご協力を

私たちは、過労死防止基本法制定を実現するため、「100万人署名」を集める取り組みを行っています。

あなたに以下の取り組みの1つでも、そして1つでも多くのことをしていただけますよう、心からお願いします。

- ① まず、あなた自身が署名をしてください
- ② 家族、友人、知人に署名を呼びかけてください
- ③ 家族、友人、知人にも署名用紙を渡して、署名を集めてくれるよう訴えてください
- ④ あなたのブログ、ツイッター、フェイスブック、ホームページなどでこの署名のことや取組みのことを知らせ、協力を呼びかけて下さい

STOP! 過労死のとりくみ

- ⑤ 過労死、過労自殺に関する学習会や集会を開催してください（要請があれば、講師を派遣します）
- ⑥ 以上のことを自主的・継続的に行っていただける方は、「サポーター登録」をして下さい
- ⑦ 私たちが「賛同者」になって下さるよう要請した方は、ご承諾をお願いいたします

※ 署名用紙は、ホームページからダウンロードできます。また、上記の詳細はホームページをご覧ください。
カンパをくださる場合は下記口座をお願いします。

郵便局 00110-8-330388
三菱東京UFJ銀行新富町支店 普通 口座番号0049058
口座名義「過労死等防止基本法」準備会

◆呼びかけ団体

全国過労死を考える家族の会 過労死弁護団全国連絡会議

◆賛同者（一部、敬称略）

上野千鶴子（社会学研究者）	山田 洋次（映画監督）
島田 晴雄（労働経済研究者）	小山内美江子（脚本家）
広井 良典（社会保障研究者）	ジェームス三木（脚本家）
岡井 崇（産婦人科医）	早乙女勝元（作家）
野田 正彰（精神科医）	篠田 節子（作家）
小野田正利（教育研究者）	辻井 喬（作家）
水谷 修（水谷青少年問題研究所代表）	齋藤友紀雄（日本ののちの電話連盟理事）
大谷 昭宏（ジャーナリスト）	清水 康之（ライフリンク代表）
鎌田 慧（ジャーナリスト）	湯浅 誠（反貧困ネットワーク事務局長）
堤 未果（ジャーナリスト）	宇都宮健児（弁護士）
鳥越俊太郎（ジャーナリスト）	

過労死防止基本法の制定を



いのちより
家族より
大切な仕事って
なんですか？



ぼくの夢

大きくなったら
ぼくは博士になりたい
そしてドラえもんに出てくるような
タイムマシンをつくる
ぼくはタイムマシンにのって
お父さんの死んでしまう
まえの日に行く
そして「仕事に行ったらあかん」ていうんや

父親を過労自殺で亡くした
マーくん（当時小学校1年生）の詩



あなたとあなたの
大切な人を守るために

過労死防止基本法制定
を求める100万人署名に
ご協力ください

ストップ! 過労死 過労死防止基本法制定実行委員会

(東京事務局) 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1
岩波書店アネックス7階 東京駿河台法律事務所内
Tel 03-3234-9143 Fax 03-3234-9134

(関西事務局) 〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1-2-7
あべのメディックス2階202 あべの総合法律事務所内
Tel 06-6636-9361 Fax 06-6636-9364

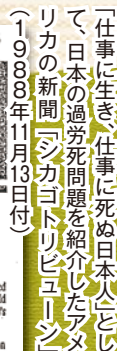
ホームページ <http://www.stopkaroshi.net/>

※上のシンボルマークは、過労死遺族の涙のしずくが寄り添い合い、
過労死をなくす虹に変わっていく様子を表しています。

無責任な私を
お許し下さい。
全て私の無能さが
原因です。
家族のみんな ごめんなさい。

過労死とは、「働き過ぎが原因となって引き起こされる死」です。長時間労働による疲労や精神的負荷が過度に蓄積すると心身の健康を損ない、ついには死に至るとされています(2000年3月24日電通事件最高裁判決)。脳内出血や心筋梗塞など**身体が破綻するのが過労死**、うつ病の発症など**精神が破綻するのが過労自殺(過労自死)**であるといえます。

過労死は1980年代後半に社会問題となり、国際的にも「**karoshi**」(death from overwork)として紹介されて既に20年以上になりますが、過労死・過労自殺は年齢、性別、職種を超えて広がり続けています。1998年から13年連続で毎年3万人を超えている自殺者の中には、相当数の過労自殺が含まれていると考えられます。



国の責任で
1日も早く
実効ある
過労死対策を



1. 過労死はあってはならないことを、国が宣言すること
2. 過労死をなくすための、国・自治体・事業主の責務を明確にすること
3. 国は、過労死に関する調査・研究を行うとともに、総合的な対策を行うこと

夫の無念の気持ち

夫は、本当に一生懸命努力して、周りの期待に応えようと頑張っていました。倒れる前年に同期のSさんが退職されてからは、心身共に負担が一気に増加して、ついにその重みに耐えきれず、力尽きたと思います。2人の子供の成長を見ることもなく、楽しみにしていた家の完成さえ見られないまま、夫は35年という短い生涯を閉じました。夫の無念の気持ちを思うとき、せめて夫の仕事を正に評価していただきたいと願うばかりです。

17日の営業部長で過労死したTさんの妻の陳述より

新聞社の営業部員で過労死したＴさんの妻の陳述より



子どもたちが
笑える
明日のために

